

## 天声人語

題名にひかれて手に取った本がある。「どこでもいいからどこへ行きたい」。著者のp.h.aさんは、旅行好きというには相当変わっている。高速バスや青春18きっぷなどを使って移動し、たどりついた先では一切特別なことはしない▼ファストフード店に入り、本を読んだりスマホを眺めたり。重要なのは日常からの距離感で、移動にかけた時間が1時間か3時間か6時間かで気分が変わるという。「もう帰れないし泊まるしかないな」と思えば、漫画喫茶やビジネスホテルでくつろぐ▼鈍行列車に長いこと揺られながら、人の話す言葉が少しずつ変わっていくのに耳を傾けることもある。そんな小さな楽しみですら、とてつもなく贅沢に思えてしまう。始まったばかりの今年の大型連休である▼きのうの東京発の新幹線はがらがらで、自由席の乗車率が0%の列車もあったそうだ。長野で県外ナンバーの車を調査しているというニュースも悲しすぎる。例年のようになくなっている▼古来、人間の定義は様々になってきた。直立する存在、知恵を持つ存在、笑う存在……。ここは断言したいが「移動する存在」もある。目的があつてもなくとも、移動そのものを求めるところが私たちにはあるのではないか▼だからこそ人類はアフリカから世界に渡り、鉄道や飛行機をつくってきたようにも思える。そんな移動の本分を取り戻す日は必ず来る。なるだけ早くようにも思える。そんな移動の本分を取り戻す日は必ず来る。なるだけ早くようにも思える。そんな移動の本分を取り戻す日は必ず来る。なるだけ早く

2020・4・26